



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 116号 2010.8.5 発行 社会政策研究所

---

本日のニュースから2つの記事を紹介します。

大阪府の財政構造改革プランについては、臨時増刊 92号(7月1日発行)でお伝えしていますが、正式に素案が出され、パブリックコメントの手続きに入りました。この原則削減の動きと、西宮市での利用者の視点に立った改革と、それぞれベクトルの方向は180度違うようです。広域自治体と基礎的自治体の対住民との関係の違いということを超えて、改めて、大阪府の役割とは何なのかを問われることとなります。【kobi】

### 大阪府が財政改革プラン発表 3年で485億の財源捻出

共同通信社 2010年8月5日

大阪府は5日、2011～13年度を対象に、歳出削減と歳入確保で計485億円の財源を捻出する「財政構造改革プラン」の素案を発表した。プラン通りに進んでも毎年400億円以上が不足し、人件費カットなどさらなる改革努力が求められる。

府財政課が今月まとめた財政試算では、同プランを実施しない場合、収支不足は各年600億円。6月の同プラン「たたき台」策定時の試算では960億～1130億円で、改善がみられた。経済成長による税収増や09年度決算で剰余金が発生したことなどを反映した。

財源不足を埋めるため8事業の廃止や41事業の規模の見直し、府有財産の売却や府税債権の回収強化で毎年125億～185億円を捻出する。

約13万8千戸ある府営住宅は世帯数減少などを勘案し将来的に半減を目指す。部局から唯一反論が出た私学への経常費助成削減も継続する方向。

府は8～9月にパブリックコメント(意見公募)をし、府議会での議論も経て11月ごろ最終的な成案を策定する方針。(共同通信)

### 詳細は大阪府のホームページにて

大阪府では、自律的な財政構造を実現し、大阪府が地域主権をリードできるよう、4月に公表した「財政構造等に関する調査分析報告書」で明らかになった課題を踏まえ、「歳入歳出改革」や「国への制度提言」「公務員制度改革」を柱として、「財政再建プログラム(案)」の後継となる「大阪府財政構造改革プラン」の策定に向け、検討しているところです。

この度、「大阪府財政構造改革プラン 素案」を取りまとめましたので、これに対する府民の皆様からのご意見・ご提言を下記のとおり募集いたします。

<http://www.pref.osaka.jp/zaisei/zaiseikouzo/100805soan.html>

大阪府では、大阪大都市圏の成長を阻害してきた要因を明らかにしたうえで、今後10年間の成長目標を掲げ、それを実現するための短期・中期(3～5年)の具体的取組方向を明らかにすることをねらいとして、「大阪の成長戦略(仮称)」の策定を進めています。

この戦略は、「大阪が成長するためには何が必要か」という「あるべき姿」に向かって、必要な取組を幅広くまとめる予定です。

そのため、大阪府として取組むべき施策・事業だけではなく、法制度の改革や創設など国として取り組むべきこと、関西全体で連携して取り組むべきこと、市町村や民間企業、NPO や広く府民に取り組んでいただきたいことなど、さまざまな主体の取組が多岐にわたる内容を盛り込み、関係各方面に共有していただくことを期待する、いわば「提言書」として活用しようとするものです。

このたび、この戦略の基本的な考え方、目ざすべき方向性などについて、府民のみなさまや団体・グループ等からご意見・ご提言を頂くべく、「大阪の成長戦略(仮称)[骨格案]」を作成しました。

ぜひ、府民のみなさまの大阪の成長に向けたご意見・ご提言をお寄せください。

[http://www.pref.osaka.jp/hodo/attach/hodo-04422\\_4.pdf](http://www.pref.osaka.jp/hodo/attach/hodo-04422_4.pdf)

## 福祉連携担当者新設、たらい回し防止へ 西宮市

神戸新聞 2010年8月5日

福祉関連窓口での来庁者の「たらい回し」を防ぐため、西宮市は関係部門の全業務に精通した「福祉連携担当者」を配置する方針を明らかにした。複数の部署にまたがる相談内容でも、原則として、この担当者が一手に引き受ける。市は「市民の負担をより軽減できる」としている。(広畑千春)

福祉行政をめぐるのは、制度が複雑で改正も多いことに加え、担当課が「高齢者」「障害者」などと細分化されている。このため、例えば、相談者自身に障害があり高齢の親を介護している人らが、相談ごとの解決や必要な行政サービスを受けるために、役所内を歩き回らなければならないケースも多かった。

福祉連携担当者はこうした煩雑さを解消するため、高齢福祉グループ 障害福祉課 厚生課 保健所健康増進グループに、1人ずつ配置。各部署の業務全般を把握し、それぞれの窓口で福祉全般の相談に応じる。

相談内容が別の部署の所管だった場合は、その課の連携担当者が相談者のところに書類を持って行き、必要な申請や手続きなどをする。相談内容は記録し、相談者の同意を得て各課で共有するという。

西宮市外では、埼玉県行田市や滋賀県野洲市が「福祉総合相談窓口」を設置しており、同市でも同様に窓口の一本化を求める声が上がっていた。しかし、新しく窓口を設置する場所や人的余裕がなく、相談後も各課を回らなければならないことを考慮し、福祉連携担当者を配置することにしたという。

本年度中に研修を実施し、試験を経て本格導入するといい、市健康福祉局は「どの福祉窓口でも安心して相談を受けられ、すき間のない支援ができる」としている。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行